

「まいにち笑顔 みんなが笑顔」

これから3つの話をします。写真を見てどんなお話か考えてみてください。

1つ目。これは何をしている写真でしょう。（3年生ヤゴとり）

これは、3年生が5月31日に学校のプールで行ったヤゴとりです。ヤゴとは、トンボの幼虫（子供）で、水の中で育ちます。毎年プールが始まる前に3年生が行っていますが、プール清掃が行われると、水の中にいるヤゴは全部流されてしまうので、それを救出しているのです。今年もたくさんのヤゴが捕れました。そこで捕れたヤゴを教室で育てたところ、6月3日には最初の1匹目が羽化といって、大人のトンボに成長しました。なかなか大人のトンボになるまで育てるのは簡単ではないのですが、何匹かがトンボにまで成長することができています。

2つ目。ここはどこの写真か分かりますか。これは、外から見た給食室です。先週、窓の上にある換気をする入り口からハトの鳴き声がすると給食室の方から話がありました。よく見ると、換気口のところにハトの雛が2羽いました。そこで、用務の水野さんが、ハトのために小屋を作って、安全な場所に移してあげました。残念ながら1羽は死んでしまいましたが、もう1羽は今のところ元気に育っています。無事に巣立つことを願っています。

3つ目。ここはどこの写真か分かりますか。1階が保健室で、その上が事務室です。この事務室の窓の外側に、鳥の巣があるのを栄養士の仲倉さんが見つめました。よく見ると5羽の雛がいて、近くに親と思われる鳥が飛んでいました。尾が黒く、お腹が白い、セグロセキレイという鳥です。仲倉さんが毎日、観察を続けていると、親鳥は一生懸命に餌を見付けては、雛たちの口に運んでいました。そのお陰で雛たちは無事に育っていききました。ところが、昨日の朝、巣を見ると雛たちはいませんでした。どうしたのか心配して外を見てみると、池の周り、2年生の鉢の周りをチッチと歩いていました。近くに子供たちが来ると、まだ慣れない羽を羽ばたかせながら飛んでいきました。みんな元気に飛べることを願っています。

さて、この3つの話に共通することは何でしょう。それは“いのち”です。ヤゴやハト、セキレイの子供たちは、全員が無事に大人になれるとは限りません。でも、大切に育ててあげると、皆、元気に大空を飛ぶことができます。七小で生を受けたすべての“いのち”がよろこびあふれるよう、大切に見守っていつてあげましょう。

① ヤゴ



② ハト



③ セキレイ

